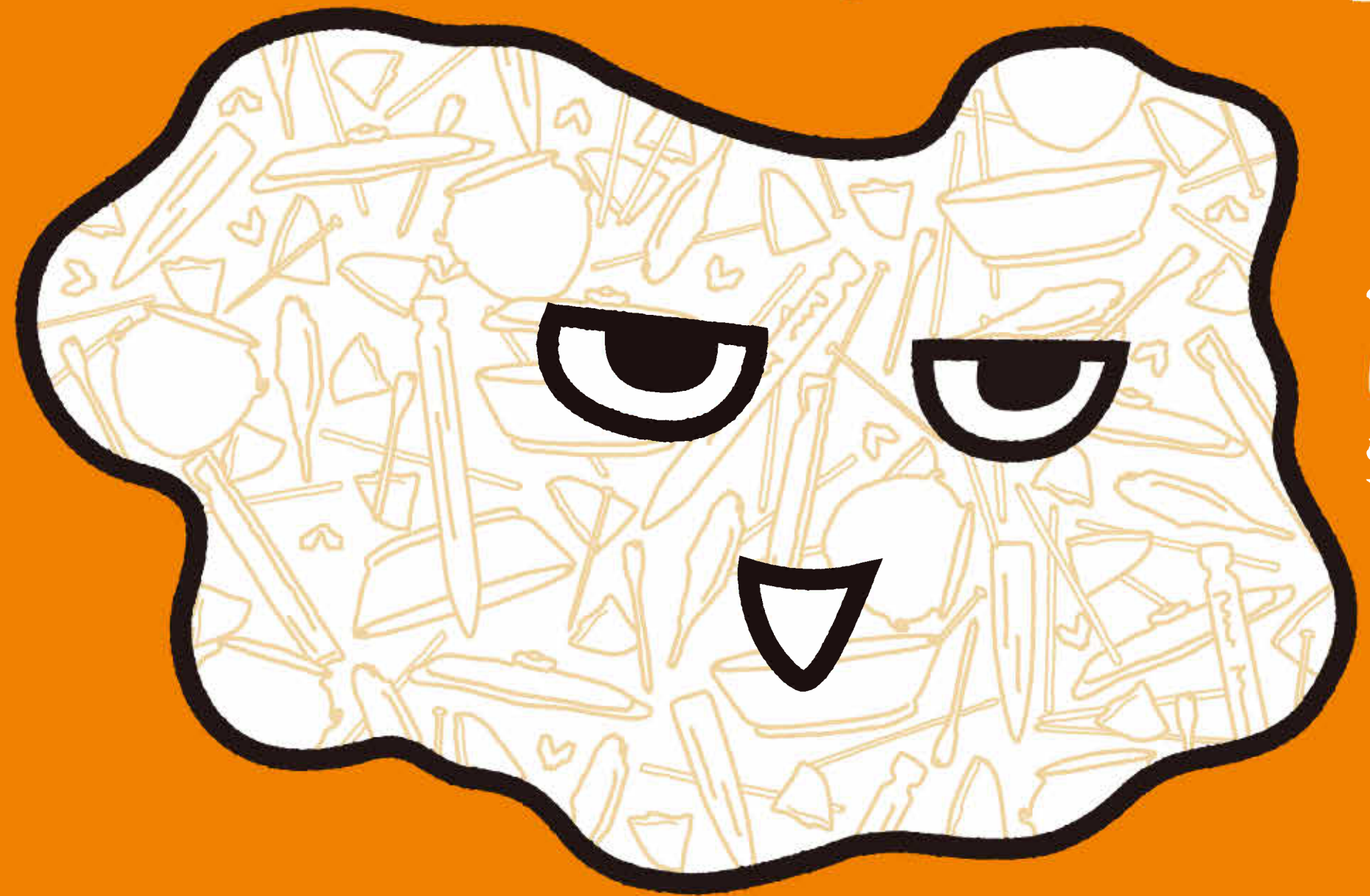


平城京 “ごみ”ずかん



ごみは宝。

平成27年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示
『平城京ごみずかん ―ごみは宝―』

発行日 2015年7月11日
発行 独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市佐紀町247-1（仮設庁舎）
<http://www.nabunken.go.jp/heijjo/museum/>

企画編集 奈良文化財研究所
デザイン 能勢真穂子
イラスト 河野悦子（ゴミドコさん以外）
印刷 能登印刷株式会社

ごあいさつ

みなさんの家のごみばこには、どんなものが捨てられているかな？
もし、1300年後の未来の人が、みんなの家のごみばこを見たら
一体どんなことを考えるかな？

この展示では、今から1300年前に
平城京の住人が捨てたごみを大公開します。

都の人のくらしがわかる、とっても大事な“ごみ”なんだよ。

今のように分別はしていないけれど、

今よりも、モノを大切に使う思いがあふれていたのかもしれないな。

そんな、1300年前の“ごみ”がたくさん並ぶ、“ごみ”ずかん。

どんなものがあるか、じっくりページをめくってみてくださいね！



ごみは宝。

まつむらけいじ 所長

とある日の けいじくんちの ごみ

どんなくらしを
してんのかな？



ゴミドコさん



平城京の くらしを のぞいてみよう



平城京で ごみを捨てる

1300年前の日本の都、平城京。

ディズニーランド47分ぐらいの広さの街。

そこに、およそ5万人から10万人ぐらいの人が
くらししていたと考えられているよ。

人々は、この街の中で道具を作り、使っていたし、
毎日の食事もおかかせないから、
ごみがたくさん出たはずだね。

何万人分のごみって、すごたくさんありそう。
トラックもごみ処理場もなさそうな時代なのに、
一体どこに、どうやって捨てたんだろう…

奈良市役所所蔵平城京復元模型

ごみの捨て方 ワン ツー スリー 1・2・3!!

発掘調査でわかってきた
平城京のごみの捨て方の
キホン

ワン! 1



1. 穴をほる

たくさんごみがある時でも、ごみの量に合わせて自由な大きさにほればいいし、捨てたい場所の近くにほれば、運ぶ手間もはぶけて便利だね。あまり人に見られたくないごみも、捨てた後、一度に土をかぶせてしまえばのぞかれる心配もなし!

2. 水に流す

ちょっと捨てたいものがある時は、穴をほるのもめんどくさいし、川や道路のわきにある溝に流したよ。ごみだけじゃなく、まじないの道具もよく溝に流されたから、溝そうじはかせなかったみたい。溝がつまったら大変だもんね。



スリー! 3



3. 井戸に捨てる

水道がなかった平城京の時代、井戸は生活に欠かせない水を地下からくむために必要で、平城京のあちこちにつくられたよ。すまいの引っ越しなどで井戸が使われなくなる時には、いらないものを投げ捨てたんだ。井戸は深いから、たくさん捨てやすかったんだろうね。

ごみの 見つけ方

発掘調査で
見つかるものから
ごみをさがそう!

発掘調査で 何が見つかる?

平城京が日本の都だったのは74年間。都が次の場所にうつると、人々もその新しい都に引っ越し、平城京の景色は田んぼや畑にかわっていったよ。今、平城京があった場所を発掘すると、田んぼや畑の土の下から、建物の柱のあとや、使われていた道具がたくさん見つかって、当時の様子を知ることができるんだ。



出土品は ぜんぶごみ?

平城京の発掘調査で見つかるもの(出土品)には、屋根にふかれた瓦、焼き物の器(土器)、字が書かれた木の札(木簡)、お金、焼き物の馬(土馬)、釘、くし…、など色んなものがあるよ。これらは、全部平城京の住人がいらなくなって捨てたごみなのかな? お金を捨てるなんて、もったいない気がするんだけど…。



ごみじゃない ものって何?

土の中から見つかるものをよく調べると、いらなくなって捨てられたごみとは考えにくいものがあるよ。大切に土の中にうめたり、いのりをこめて水に流したり、うっかり落としたんじゃないかと思うものだったり…。これらのちがいを発掘調査ではしんちょうに見きわめるんだ。



あんな“ごみ” こんな“ごみ”



すずり

表は黒いスミ、裏は朱色のスミをするのに使った、一台で二役のとてもめずらしいすずりだよ。表はおどろくほどツルツルで、よくすったことがわかるんだ。

よく使いました！



といし

刃物を研ぐための石だよ。もともとは長方形だったけど、真ん中が折れそうなるほど細くなっているね。

げた

かかとの部分がよくすりへったげたが、平城京では多く見つかったよ。このげたの表には、指のあとくっきり！

もう使えません！



しおをつくるための土器

海の近くで海水をにつめて塩を作るための器で、このまま平城京に運ばれたよ。割って中の塩を取り出したみたいで、粉々で見かけることが多いよ。



ハニワ

平城宮をつくる工事中に、古墳をこわすことがあったって知ってた？そこに並べられていたハニワも、もう使いみちがないから、地面をならす土に混ぜてしまったようだ。



木簡

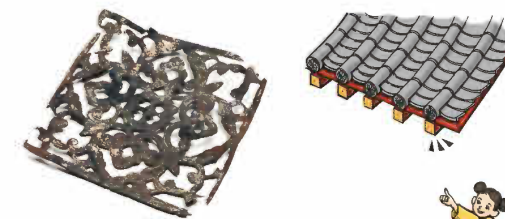
ひもを通すための穴が、横からあけられた木簡があるんだけど、使っているとき、穴の部分でよく割れたみたいなんだ。破片の短い方は、さすがにもう使いみちがないね…。



ウルシを運んだ土器

産地でとれたウルシを、平城京に運ぶための器。ウルシを使うときには割って、取り出しやすくして、最後まで大切に使ったよ。

美しすぎる！
ごみ



屋根を支える垂木の先をかざる金具で、とてもうすい銅の板を切り抜いて作られているんだ。



何に使ったのかよくわからないけど、正倉院に伝わる刀かざりや、馬具のかざりによく似ているよ。



釘の頭を、花の“しん”に見立てているよ。径3cmと小さいのに、とても細かく作られているね。



扉に打たれた大きな釘をかくすための金具だよ。花の形で釘をかくすなんてセンスいいね！



色んな 모양が組み合わさっているね。道路わきの溝から様々な金具と、いっしょに見つかったよ。近くの工房から捨てられたのかな？



寄生虫の卵

遺跡の中で、ここはトイレかも？と気になる場所の土を顕微鏡でよく見ると、寄生虫の卵がたくさんみつかることがあるんだ。当時の人が食べていたものまでわかったりするんだって。



ウンチ

平城宮の役所の近くの穴の中で見つかったよ。仕事におなかの痛くなったのかな？



ちゅう木

昔のトイレットペーパーだよ。ちゅう木あるところに、寄生虫の卵あり！いらなくなった木簡を再利用したものもあるみたいだよ。

おなかのごみナド



ごみの中の
ごみ



ハツリくず

木材を刃物で加工する(はつる)ときに出るごみ。特に、建物を建てる時には、たくさん出たよ。



切りくず

上流のくらしにかかせない、かざり金具を作るときに出たごみかな。



けずりくず

木簡の表面の文字を小刀でけずったときに出るごみ。今で言う、“消しカス”。出土する木簡のほとんどは、これ。



果実のタネ・カラ

食べ残しを捨てたごみ捨て場から見つかるよ。平城京では、ウメ、カキ、ウリ、クルミ、モモ、クリなどがよく食べられていたみたい。

生ごみ



魚貝類のホネ・カラ・フタ

最近では、遺跡の土を細かく調べることによって、発見が増えてきているよ。海のなない奈良なのに、色々な食材を食べていることにオドロキ！

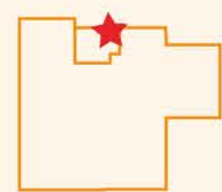
役所のごみ捨て場を のぞこう



私は、平城京の中心部、平城宮で働いている役人です。平城宮には天皇のお住まいがあり、国の政治をおこなう役所が集まっています。このところ、都はあちこち引っ越ししてきましたが、ふたたび平城宮にもどってきたので、リフォームやら建てかえやらで大さわぎ。天皇の住まいの近くで片づけをしていたら、たくさんのごみが出たので、どこかにうめてしまいたいと思っているのですが…。

ごみ捨て場データ

名前：S K 820（えすけーはっぴやくにじゅう）
捨てられた時期：天平19年（747年）ごろ
大きさ：一辺およそ3.8m、深さ1.7m以上
捨てられた主なごみ：木簡約1800点、土器約600点、木製品約800点、木炭11.2kg分



場所はこちら！



奈良時代後半の平城宮のすがた

形はこれ！



食事用の土器

同じ形で様々な大きさに作りわけられた土器がたくさん見つかったよ。奈良時代の代表的な食器セットと言えるんだって。



大型のしゃくし

給食室で使っていそうな、びっくりするほどの大きさだよ。近くで、大人数分の調理でもしたのかもね。



おうぎ

3点見つかったよ。1ミリ以下のとっても薄い板でつくられているんだ。形が丸くてカワイイ！



トリのえさ入れ？

「鳥食入器」かかわれている。きっと鳥のエサ入れだね。鳥がラクガキされた土器も見つかったよ。

★マークがあるものは、実際に出土した実物そっくりに再現したレプリカだよ。



すごろく盤

見つかったから 50 年以上ナゾだった食器のウラのラクガキ。最近、すごろくの盤だとわかったよ！



はし

全形が残るものだけで、300本以上。使いこまれていないから、わりばしみたいに使い捨てされたのかもね。



木炭

とてもたくさん木炭が見つかったよ。クヌギやコナラなどの質がよい炭で、天皇の住まいの暖房や調理用と考えられているよ。



糸をつむぎ、巻き取る道具

製糸道具がいくつも見つかったよ。近くにおり物工房があったのでは？



ススのついた土器

調理のために火にかけて使う土器が小さいく見つかったよ。これは、小さくて丸い形。何を作ったのかな？



「糞」木簡

各地から集められた天皇のための食材を「糞」というんだけど、それにつけられていた札が多く見つかったよ。



ほうき

ホウキグサをたばねたもの。先の方は残っていないよ。これでそうじした後、ホコリといっしょに捨てたのかな？



お寺のごみ捨て場を のぞこう



平城宮の西にある、西大寺という寺を知っているかな？東大寺に負けないくらい、大きな寺なんじゃぞ。ここは、「食堂院」という場所。たくさんいる僧のために食事を作るのもうろん、大事な仏さまに供える食事も用意してある。しかし…、もう平城京も都じゃなくなっちゃったし、寺も前よりさびれてきたし、もう井戸も使わなくなっちゃった。ごみでも放りこんで、うめてしまおう。

ごみ捨て場データ

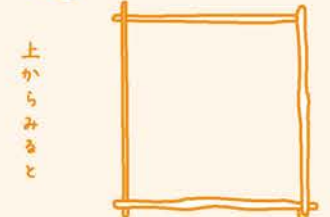
名前：S E 950（えすいーきゅうひやくごじゅう）
捨てられた時期：延暦11年（792年）ごろ
大きさ：一辺およそ2.3m、深さ2.8m以上
捨てられた主なごみ：木簡約2700点、製塩土器20箱分、墨書土器約100点、軒瓦・道具瓦約90点、木製品約4000点

場所はこちら！



西大寺のすがた（部分）

形はこれ！



製塩土器

平城京で1、2を争うほどたくさん見つかったよ。中の塩は、つけものや調味料づくりに使われたのかな。



食事用の土器

西大寺の僧が食事をした器かな？割れたりせずに、まだ使えるのに捨てられたものも多かったみたいだよ。



「食」にかかわる木簡

野菜の送り状、つけもの容器や米俵のタグ、寺の中でご飯をくばった時の伝票など、色々なものがあるよ。



緑色のレンガ

井戸では1点だけだったけど、食堂院一帯で多く見つかったよ。近くに一面緑色の床をもつ建物があった！



貯蔵用の巨大な土器

最大径が64cmもある容器。このままの形で、井戸に捨てられたみたい。放りこむのも一苦労だね。



「西大寺」と書かれた土器

お寺の持ち物だとわかるように書いたのかな。「西寺」と省略されたものもあるよ。



大型のスプーン

口には入らないような大きさだよ。食事を取り分けるレンゲのようなものだったのかな？



ラクガキのあるレンガ

人や鳥がかかっているよ。人物といえは、役人をえがいたものが多い平城宮のラクガキとは一味ちがうね。



火にかけられた土器

下半分にスグがついているのがわかるかな？にたり、たいたりする調理に使われたよ。



軸がかけられた土器

とても美しく、仏さまに供えた器と考えられるよ。正倉院の宝物にも似たような器があるんだよ。



火ばし

火だねのような、熱いものを持つための銅のはし。頭がレンゲの花をかたどっていて、とってもオシャレ。



かくれんのに

ちょうどやな。

★マークがあるものは、実際に出土した実物そっくりに再現したレプリカだよ。

貴族のごみ捨て場のぞこう



私は長屋王。とある役所の長官として平城宮につとめておる。自分で言うのもなんだが、平城京の広い一等地に住んでいて、使用人たちが、われわれ家族とともに住み、くらしを支えてくれておるよ。このたび、家を建てかえることにしたので、この機会に、不用品をいっさいかさい捨てさせることにしよう。そうそう、われわれのくらしでは木簡がかかせないんだが、使い終わった木簡もたまってきたようだし…。

ごみ捨て場データ

名前：S D4750（えすでいーよんせんなひやくごじゅう）
捨てられた時期：霊龜3年（717年）ごろ
大きさ：長さおよそ27m、幅およそ3m、深さ0.6m以上
捨てられた主なごみ：木簡約35000点、木製品約1500点、土器約350点、果実の実やタネ・カラ多数

場所はこちら！



イラスト：早川和子
長屋王の住まいのすぐた

形はこれ！

上からみると

断面を見ると

木簡（文字が書かれた札）

その数 35,000 点!!
ごく一部をしょうかい

住人がわかった木簡

「長屋親王宮」、つまり長屋王の住まいあてのアワビにつけられた送り状だよ。この遺跡が長屋王の住まいとわかった決め手のひとつなんだ。みんなも、名前が書かれた書類や手紙をそのまま捨てたら、未来のだれかに見られちゃうかもね。

住まいで働く職人に米をしはらった伝票

土師器という土器づくりを仕事にしていた女性たちに米をしはらった時の伝票だよ。同じごみ捨て場には、彼女たちが作ったかもしれない土器も捨てられていたんだって。それにしても、住まいの中に土器づくり工房があることがすごい！

つけものの送り状

ウリ、ナス、トウガン、ミョウガのつけものにつけられた送り状だよ。1300年前からこんなに色々な野菜のつけものを味わっていたとは！つけものにして野菜を保存することも知っていたんだね。

犬やツルとくらす

犬の飼育係の子供たちに米をしはらった時の伝票や、ツルにエサの米をあげた時の伝票が見つかったよ。長屋王の住まいで、ツルまで飼っていたこと、エサが米だったこと、子供も働いていたこと全てがオドロキ！

住まいで働く使用人の成績カード

出雲臣安麻呂さん（京都出身の29才で住まいの雑用係）が一年間に働いた日数が書かれているよ。これをもとに成績がつけられて、うまくいけば位が上がるんだって。位が上げれば給料もアップ！

氷の送り状

長屋王家は、はなれた高原に氷の貯蔵庫を持っていて、夏になると毎日のように住まいに運ばせたそうだよ。その時の送り状がこれ。馬一頭のにせられる量の氷が送られているよ。平城京から10キロ以上はなれているんだけど、とけないようにどうやって運んだのかな。

牛乳配達人へ米をしはらった伝票

牛乳を運んできた人に、米をしはらった時の伝票。につめて「蘇」を作り食べていたみたい。そのまま飲んだりもしたのかな。牛乳はとても高級品だったから、長屋王ってすごく権力があつたんだね。

木簡の“消しカス”

文字を書き直したい時や、使い終わった木簡を再利用したい時は、小刀で文字の部分をうすくけずったんだ。このごみ捨て場で見つかった木簡の約80%が、このけずりくず。時には大切な情報がかくれてるよ。“消しカス”までジロジロ調べてごめんなさい。

木でできた道具



さじ

今のものに比べると、先が平たすぎて、食べ物をちゃんとすくえたのか心配にならない？



はけ

はけが6点見つかって、うち3点はウルシをぬるためのものだったよ。工房でよく見つかる工具だよ。



こて

土なんかを平らにならすための道具だよ。住まいの壁をととのえ、る時に使ったのかな。



ことじ

琴の上で弦をささえて、音の高低を調節するものだ。残念ながら、琴の本体は捨てられていなかったよ。



しゃくし

調理の時に使ったり、ご飯を器にもするための道具だよ。ヒノキ製と聞くと、ぜいたくな感じがするね。



はり針

かみの毛にかんざし風にさしたり、ムシロをあむのに使ったり、様々な針があるよ。



工具

先のとがった部分で、穴をあける道具だよ。にぎる部分は、木の節を使っていてにぎりやすくなっているんだ。



文書箱

紙の書類を入れる箱が8点も見つかったよ。これほど見つかったところは平城宮にも見あたらないなあ。



曲物

平城京のあちこちで見つかる、日常生活にはかかせない器だよ。捨てられるとバラバラになるから残りにくいよ。



ふた

50点近くも見つかったよ。組み合う木の容器は見つからないから、土器のふただったのかな？



よこづち

ものをたたく道具だよ。全体的にキズやいたみがないから、せたく物やワラみたいなやわらかい物用だったのかもね。



くつ

木をくりぬいて作られているよ。平城京では5点しか見つからない、めずらしいくつなんだ。

土器



食器

形や作り方がよく似たものがまとまって見つかったよ。重ねてしまうのに便利！住まいではたらく「土師女」たちが作ったかもね。他に、ふだん使う食器とは思えない、大きなお皿もたくさん見つかったんだ。



貯蔵用の容器

最大径が40cm近くある、大きな容器だよ。とってがあるから、なわをかけて運ぶこともあったのかな？



ウルシの容器

ウルシを使う職人もいたってことだろうね。はけも捨てられてたしね。色々な職人がいたんだなあ。



灯をともした器

電気がないので、暗くなるとお皿に油をいれて灯をともしたよ。ふちや中にススがついているのが決め手。

その他



ガラス玉

1点見つかったよ。ひとつで使うことはあまりないから、もっとたくさんあつたんだろうね。とかしてリサイクルされたかな？



建物のラクガキ

屋根のはしっこにかかれた「鵲尾」は、平城宮やお寺の建物にしか使われていない、立派なかざりなんだよ。どの建物をかいたのかな？



果実のタネ・カラ

大量のタネやカラが見つかったよ。多かったのはクルミ、モモ、クリ。クルミって今はそんなに食べないから、意外！

オマケ



長屋王の住まいの中（復元）

長屋王はとても位の高い貴族で、ぜいたくなくらしをしていたと考えられてんねん。床には、派手な模様のじゅうたん、とても高級な家具…。今回とりあげたごみは、たぶん、長屋王の住まいでくらす使用人たちが仕事場や生活の場から出したごみ。長屋王の家から直接出されたごみも見てみたいわ。ゴミドさんのひとりごとでした。





ラクガキ帳

元のすがた：土器・木簡・瓦など
リサイクル難易度：☆☆☆

みんなは、めくったカレンダーのうらや、
見終わったチラシのうらにラクガキしたことないかな？
平城京の住人も、似たようなことをしているよ。
もう使わなくなった土器に顔をえがいたり、
木簡に字の練習をしたり、瓦に九九を書いてみたり…。
あいたスペースをみつけると、ついついラクガキしたくなるのは、
1300年前の人も同じなんだね。



すずり

元のすがた：土器
リサイクル難易度：☆☆☆

学校の書道の時間には、長方形のすずりを使うよね？
奈良時代の役人たちは、スミをするときに
丸い形のすずりを使ったんだよ。でも、
みんなが丸い形のすずりを使ったわけではなくて、
位が低い役人は、食事用の土器の底やフタ、
“甕”とよばれる大きな土器の破片を、
すずりがわりに使ったみたい。



ウルシ容器のフタ

元のすがた：書類
リサイクル難易度：☆☆☆

ウルシって知ってる？
みんなの家のどこかに、ウルシがぬられた、黒や赤のおわんはないかな？
平城京にあった、ウルシぬりの器をつくる工房では、
ウルシが乾かないように、パレットに紙でふたをしていたんだ。
でも、新品の紙ではなくて、いらなくなった書類を使ったんだよ。
そして、使い終わったら、折りたんでポイッ。
ウルシがしみこんだ紙は、土の中でもくさらずに残ってしまうんだよ。



スグにはすてません

天平
リサイクル

屋根の瓦

元のすがた：瓦
リサイクル難易度：☆☆☆

これは、屋根の軒先をかざった、軒瓦という瓦。
ハスのもよりの丸い瓦と、唐草もよりの平たい瓦があって、
建物によって少しずつもようがちがったんだ。
この軒瓦は、平城宮の正門・朱雀門や、
平城宮をかこむ“へい”の屋根にたくさん使われたもの。
元々は、ひとつ前の都だった藤原京の中心部・藤原宮で使われていた瓦
なんだ。つまり、瓦のおさがり、ということになるのかな。
使いみちを変えなくても、これよりっばなりサイクル！



井戸のわく

元のすがた：たて
リサイクル難易度：☆☆☆

生活に欠かせない地下水をくむための井戸。
井戸をつくる時には、地面を深く、地下水が出る場所まで
ほって、まわりの土がくずれてこないように、木の板など
で、押さえるんだ。
井戸の大きさにあわせて、板を用意することが多いんだけど、
なんと、“たて”をさかさまにして組み合わせた井戸が
見つかったよ。
この“たて”は、南九州出身の人々が、平城宮の儀式で使っ
たと考えられていて、大きなうずまきもようがえがかれて
いる、色あざやかなものなんだ。



排水管

元のすがた：建物の柱
リサイクル難易度：☆☆☆

この、長〜い木の管は、地下にうめられていた排水管。
平城宮の中心・第一次大極殿の前の広場の水はけをよくするため、
何本もつなげて、うめられていたんだ。
実はこれ、元々は藤原京の中心部・藤原宮の建物で使われていた、立派な柱。
それをわざわざ運んできて、中をくりぬいて、排水管に生まれ変わらせるなんて、
すてきなアイデアだね！



ニミ ニぼれ話

使えるけど捨てる

建物のあった場所を発掘すると、屋根瓦がたくさん出土することがあるんだ。建物を建てかえたり、引っ越しする時に持っていらずに捨てたみたいだよ。でも、今、奈良町にある元興寺の屋根には、1400年前の瓦がいまだに使われているから、長持ちするものもあったはずなんだよね。もちろん、リサイクルして別の建物の屋根に使うこともあったけど、新しい瓦でそろえることもめずらしくなかったようだよ。



ほったらかされて 1300年

平城京の人々が、わざわざ捨てたわけではないけど、使われなくなってしまったものがあるよ。土管、柱の根元、井戸のわく、建物の床にしかれたレンガ…など。当時、地面の近くにあったり、地中にうまっていたものが使われなくなると、そのままうめられることもあったんだね。動かされなかったからこそ、当時どうやって使われていたかがわかる、とても大切な資料なんだよ！



ゴミもウンチも いっしょに捨てた？

平城宮の東方にある役所の一角での話。一辺 70cm ほどの穴から、ちゅう木、とてもたくさんの種類のタネ、寄生虫の卵が見つかったよ。ここはトイレで、タネはウンチに混ざって出てきたのかな？でも、タネをよく見ると、かまれていない完全な形のものがたくさんあったんだ。よくかまずに飲みこんだにしては多すぎるから、食べ残しを捨てる穴でもあったのかもね。ちなみに、ハエのサナギもたくさん見つかったよ。

ごみをもやす

平城京の時代、ごみをもやすことはあたりまえではなかったんだ。ごみをもやしてつかまった人もいたぐらい。ところが、2008年の冬、こちらも平城宮の東方にある役所の一角で、とても多くの木簡や木くずをもやした巨大なごみ捨て穴が見つかったよ。どうしてわざわざもやしたのかな？土をかぶせてうめるだけでなく、念には念を入れてもやしたのかもしれないね。



ごみをとかす

平城宮跡に復原して建てられた、第一次大極殿や朱雀門。その屋根の両はしに、金色に光るかざりがのっていることは知っているかな？これは、「鸕尾」といって、銅に金メッキして作られているんだ。でも、発掘調査では、かけらも出土していないんだよね。建物をこわして鸕尾がいなくなった時に、とかして別のものに作りかえたんじゃないかと考えられているよ。



おわりに

平城京“ごみ”ずかん。どうやった？

遺跡から見つかった昔の道具を目の前にすると、

「これを使って、どんなくらしをしていたのかな？」と考えへん？

でも、「どうして捨てられたのかな？」「もう使えなかったのかな？」という見方で、昔の道具を見てみると、また一味ちがった楽しみ方が生まれると思うねんな～。

これからも、平城京の住人が残した“ごみ”を、

平城宮跡資料館に見に来てくれるとうれしいわ。待ってんで！

